

学校経営推進費 評価報告書（1年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立とりかい高等支援学校
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	(1) ICT 機器を活用した「主体的で対話的な深い学び」を軸にした指導力・授業力の向上 (2) 生徒の自己肯定感を高め、自己実現、自立のための力、働き続ける力の向上 (3) 支援学校における児童・生徒、保護者の学校満足度の向上
計画名	Fly To The Future ～それぞれの自立のために～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会的自立に必要な力を養うための特色ある教育活動の充実 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次期学習指導要領をふまえた教育課程の確立と、確かな学力をはぐむために、「主体的で対話的な深い学び」を軸に授業改善に努める。 (2) キャリア教育の観点からの自立活動を充実させることにより、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導、支援をはかる。 (3) 生徒の自己肯定感を高め、自己実現と働き続ける力を育成するための「進路学習・進路指導」の推進。 2 高等支援学校教員としての専門性の確立とこれからの時代の変化に対応できる組織力向上 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教員全員の指導力、授業力の向上を組織的に推進し、社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員の育成をめざす
事業目標	<p><本校の課題></p> <p>本校の生徒たちにとって高校生活の3年間で「生きる力」を育成することは大きな課題である。障がいにより不足している経験を補うために、ICT をより多く活用し、「生きる力」の育成に努めたい。</p> <p>視覚支援や聴覚支援の必要な生徒が多い中、大型テレビなどを活用した授業は本校の教育活動の中心になりつつある。しかし、テレビ台数の不足により、経験を積む機会を逸している現状があり、生徒たちの「生きる力」育成のためにも、自らの考えを伝えることや発表の機会を ICT 活用により増やしていきたい。</p> <p><事業概要></p> <p>電子黒板が各教室に配置された場合は(1)から(3)の目標達成をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 電子黒板、タブレット端末を中心に ICT 機器を効率的に活用し、未知の情報を得ることで受け身の授業から、友だち同士での教え合いや、学びの発表など、自ら学ぶことができることにより知識・技能の定着をはかる。他者を意識した話す力、聞く力の育成をめざす。また、すべての授業で視覚支援、聴覚支援を行うことで分かりやすい授業を実践し、生徒の能動的な学習時間が増える。 (2) 教え合い、発表をする→知識・技能の定着→自信がつく→主体的・意欲的に学ぶという正のスパイラルを生み、自己肯定感を高め、就労するための力を身につける。 (3) 生徒の満足度だけでなく、生徒の成長を感じることで保護者の満足度の向上につながる。
整備した 設備・物品	<p>普通教室9室、特別教室2室に設置する次の備品を購入した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 電子黒板機能付きの壁掛け式単焦点プロジェクター (11台) ② インターフェイスボックス (11個) ③ プロジェクタースクリーン (11個)

	<p>④ Apple TV (11台)</p> <p>※ ①の付属品は、壁付け金具（電子黒板設置金具）、電源ケーブル、RGB ケーブル、音声ケーブル、HDMI ケーブル、USB タイプ A ケーブル、同 B ケーブル、RS232C ケーブル。</p>
<p>取組みの 主担・実施者</p>	<p>FT2F (FLY TO THE Future) チーム (ICT 機器を活用した授業力向上チーム)</p> <p>構成メンバー 教頭、首席、各教科代表、教務部情報係</p>
<p>本年度の 取組内容</p>	<p>本年度は「整備した設備・物品」欄に記載のとおり、本件事業計画に必要な備品、消耗品を整備した。</p> <p>但し、新型コロナウイルス感染症の拡大により、外部講師を活用した研修及び先進的な取組みをしている事例の視察は実施できなかった。</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>(1) 学校教育自己診断（生徒）の「授業の工夫」「授業が分かりやすい」の項目の肯定率を 90%とする。授業の ICT 機器を用いた公開授業（3名）行い、ICT 機器を活用する教員の割合を 60%とする。</p> <p>(2) FT2F チームの調査の「自己肯定感を高めた」、「自己実現、自立のための力を持った」、「働き続ける力を持った」の項目の肯定率を 85%以上にする。</p> <p>(3) 生徒、保護者の学校満足度の肯定率を 85%とする。</p>
<p>自己評価</p>	<p>(1) 学校教育自己診断（生徒）</p> <p>「授業の工夫」に関する項目の肯定率は 88% …… (△)</p> <p>「授業が分かりやすい」の項目では肯定率は、87% …… (△)</p> <p>※ わずかながら目標とした 90%には届かなかったものの高い数値となったのは、電子黒板が設置されたことが理由の一つであると考えられる。</p> <p>新型コロナウイルス感染症予防の観点から公開授業は実施できなかった。 (－)</p> <p>ICT 機器を活用する教員の割合 76% …… (○)</p> <p>※ YouTube を利用して 3名の教員が動画で授業の様子を公開した。11校から問い合わせをいただき、動画を使用した授業作りの参考として視聴していただいた。</p> <p>(2) 電子黒板の設置から研修を実施し、FT2 チームを中心に授業の様子を見学した。設置から間もないこともあり、組織的なアンケートを実施するには時期尚早と判断し、今後の検討課題とした。 …… (－)</p> <p>※ 教室に設置されたことで機器の移動が簡略化され、空いた時間を生徒対応に使えるため、教員の働き方において役立っているという声があがっている。</p> <p>(3) 学校満足度：保護者 88%、生徒 87% …… (○)</p> <p>※ 学校教育自己診断では生徒については、どの項目も 80%を超える肯定率となっており、保護者についても 80%を達成していない項目はわずかとなっている。また、生徒、保護者ともに 90%を超える高い肯定率となっている項目もある。電子黒板が設置されたことで、就労に役立つ教育活動が円滑に実施されることに期待が込められていると思われる。</p>
<p>次年度に向けて</p>	<p>外部講師による講習や先進事例の視察で得られた知見を活用して、教員向けの研修を十分に実施し、事業目標の完全達成をめざす。</p>

3. 事業費報告

今年度事業費総額	3,532,540	円
----------	-----------	---

積算内訳

* 決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

	科目（節）		内訳	単価	数量	金額	
	番号						
積算内訳	1 報償費	1					
		2					
		3					
						小計	0
	2 旅費	1					
		2					
		3					
						小計	0
	3 消耗需用費	1	AppleTV HD		¥17,270	11	¥189,970
		2					
3							
					小計	¥189,970	
4 維持需用費	1						
	2						
	3						
					小計	0	
5 役務費	1						
	2						
	3						
					小計	0	
6 委託料	1						
	2						
	3						
					小計	0	
7 使用料 及び賃借料	1						
	2						
	3						
					小計	0	
8 備品購入費	1	電子黒板機能付きの壁掛け式単焦点プロジェクター（11台）		¥3,342,570	1	¥3,342,570	
	2	インターフェイスボックス（11個）					
	3	プロジェクタースクリーン（11個）					
	4	※一式表示。1の付属品代、設置費用を含む。					
	5						
	6						
					小計	¥3,342,570	
9 工事請負費	1						
	2						
	3						
					小計	0	
10 負担金・補助 及び交付金	1						
	2						
	3						
					小計	0	
					合計	¥3,532,540	